

Adobe® FrameMaker® 10 に対するお客様とパートナーの声



目次

- 1 コメント
- 3 レビュー
- 3 非構造化 FrameMaker 10 が翻訳を助ける 8 つの方法
- 7 構造化 FrameMaker 10 が翻訳を助ける 6 つの方法

コメント

「Adobe FrameMaker 10 は、コンテンツ管理システム (CMS) と難しい設定なしで連携します。既存の Documentum や SharePoint ソリューションを使用するだけで、バイナリと XML、どちらの FrameMaker ソースファイルでもグラフィックスでも管理することができます。Adobe FrameMaker 10 と CMS を連携させることで、複数のコンポーネントから成る複雑なドキュメントでも、チェックアウト、編集、チェックイン時の処理が適切に行われます。これらの機能強化により、ワークグループや企業のワークフローを飛躍的に効率化することが可能です。」

Alan Houser, President, Group Wellesley, Inc.

「Adobe FrameMaker 10 を使用すれば、デスクトップから部署や企業全体にダイナミックコンテンツのパブリッシングや情報配信を行うためのソリューションを顧客に提供できます。」

Alberto Franzetti, President, Antéa

「Adobe FrameMaker 10 は、DITA をサポートするために新たに改訂・開発された高度な機能が充実しています。このツール 1 つで、WYSIWYG エディター、書式設定・構成済みで視覚的にカスタマイズが可能な PDF 生成、ワードプロセッシング機能一式、および自動パブリッシング機能のすべてが手に入ります。この優れた DITA サポートにより、FrameMaker は、DITA を採用するあらゆる企業に最適なツールとなります。さらに新登場の Adobe Technical Communication Suite 3 に含まれるフルセットのツールが加われば、この分野の競争にとってハードルが高くなり、アドビはここでも主役の座につくこととなるでしょう。」

Bernard Aschwendan, President, Publishing Smarter

「サーバーベースのパブリッシングソリューションの多くは、曖昧で複雑な言語でのスタイルシートの記述を必要としますが、Adobe FrameMaker Server は、従来の FrameMaker テンプレートを使用して XML を含むコンテンツの自動レンダリングを行います。Adobe FrameMaker Server のダッシュボードには、XML コンテンツの前処理および後処理に必要なコントロール機能が備わっています。カスタマイズは FrameMaker 開発キット (FDK) によってサポートされ、FrameMaker の機能のほとんどすべてをカスタマイズおよび自動化することができます。」

Alan Houser, President, Group Wellesley, Inc.

「Adobe FrameMaker 10 に内蔵されている ExtendScript 環境は、エラーの生じやすい反復作業を簡単に自動化することで、テクニカルドキュメンテーションプロセスのあらゆるワークフローを最適化および差別化するのに有利な条件となります。」

Georg Eck, CEO, SQUIDDS

「私は毎日のように、XML、DITA、ATA iSpec2200、S1000D のオーサリングおよびパブリッシングワークフローのための使いやすく強化された機能、CMS との連携、スクリプト言語による自動化をはじめとする Adobe FrameMaker 10 の機能の数々を活用しています。お気に入りの新機能は、コスト効率に優れたパワフルな自動エンタープライズパブリッシングを実現する Adobe FrameMaker 10 Server です。このサーバーには、高度なスケジューリング、共有可能なパブリッシングタスク、および PDF、HTML、WebHelp、Adobe AIR、JavaHelp、ePub といった複数の形式およびチャネルへの出力機能が備わっています。」

Alberto Franzetti, President, Antéa

「Adobe FrameMaker 10 の新しい ExtendScript サポートは、既に 2 つの複雑な XML パブリッシングプロジェクトでその能力を示しました。嬉しいことに、私が開発した ExtendScript プラグインの性能に、私自身もクライアントも驚かされました。私が気に入っている機能の 1 つに、ScriptUI を使用して格段に魅力的なユーザーインターフェイスを構築できるというものがあります。今では、FDK よりもむしろ ExtendScript を使ってプラグインを開発するのが好きです。実に私の作業スタイルにマッチしています。」

Ian Proudfoot, Technical Partner, iTP-X

「Adobe FrameMaker の構造化文書によって、ライターはドキュメントの内容に対する組織の要求に応えやすくなりました。また、自動書式設定により、個々のドキュメントでも一連のドキュメント全体でも一貫性を確保できます。膨大な日常の編集作業は、構造化されたオーサリング環境で行う方が標準的なワードプロセッサを使用するよりも効率的です。基本的なドキュメントモデルは XML のものと同じなので、構造化文書は XML として簡単に表すことができ、XML ドキュメントは FrameMaker で作業できます。しかも、ライターに XML シンタックスの知識は必要ありません。実際、多くの出版団体は、XML が求められていないときでも、構造化文書の恩恵を受けています。」

Lynne A. Price, President, Text Structure Consulting, Inc.

「Adobe FrameMaker 10 には、多くの新機能が搭載されています。そのうちの 1 つ、反復的なタスクを実行する新しいスクリプティング機能を使用すると、注文に応じてマニュアルやトレーニング資料を制作する際に生産性が大幅に向上します。また、マルチチャンネルでの出力に対応する Adobe Technical Communications Suite の連携性を利用して、シングルソースから様々な形式に出力するパブリッシングの重要性にも顧客は気付いています。」

Karen Lelieveld, Marketing and Sales Manager, Sabern

「Adobe FrameMaker 10 は、DITA 1.2 をサポートする初のオーサリングツールです。conref 属性によって一連のエレメントを自動挿入し、keyref 属性で参照されるテキストやグラフィックスをよりきめ細かく簡単にコントロールします。」

Alan Houser, President, Group Wellesley, Inc.

「Adobe FrameMaker は XML の考え方を利用してプロセスを効率化する、柔軟かつ強力な編集／パブリッシングツールです。一方、競合ソフトウェアには、XML シンタックスの編集用に設計されたものが多く、その場合パブリッシング機能は二次的機能として備わっています。」

Lynne A. Price, President, Text Structure Consulting, Inc.

「Adobe Technical Communication Suite 3 と Adobe FrameMaker 10 を使用すると、必要なすべての印刷形式とオンライン形式の作成、配信、保守を簡単に行うことができます。プロジェクトには制作に必要なすべてが揃っているので、コンテンツが変更されるとすぐに ePUB や WebHelp バージョンにそれを反映でき、ワークフローにおける自分の貴重な時間を節約できます。」

Matt Sullivan, Director of Training, roundpeg, Inc.

「デフォルトのユーザーインターフェイスおよび DITA サポートの強化をはじめ、Adobe FrameMaker 10 の進化によって、このパワフルなパブリッシングソリューションは一段と利用しやすいものになりました。顧客の多くは、業務の一部を業者に委託しています。Adobe FrameMaker 10 は、DITA を身近なものにするとともに、必要なツールを最高水準で提供し、魅力的かつ論理的な結果をもたらします。しかも、フル機能の最上位 DITA ソリューションで FrameMaker 10 ほど習得が容易なものはありません。」

Maxwell Hoffmann, Director of Document Globalization, Globalization Partners International

「Adobe FrameMaker 10 は構造化オーサリング環境を向上させます。構造化アプリケーション作成用ウィザードや簡易化された DITA 特殊化ツール、DITA 1.2 および S1000D のサポートなどの新機能に加え、編集体験を向上すべく既存の機能も拡張されました。例えば、エレメントカタログウィンドウでは、利用可能なエレメントのタグの隣にエレメントの詳細が表示されるようになりました。エレメントは、ドキュメントウィンドウでも構造ビューでも、折りたたんだり展開したりできます。」

Lynne A. Price, President, Text Structure Consulting, Inc.

注：FrameMaker Server 10 は日本では販売していません。

レビュー

Maxwell Hoffmann 氏のレビュー、非構造化 FrameMaker 10 が翻訳を助ける 8 つの方法および構造化 FrameMaker 10 が翻訳を助ける 6 つの方法からの抜粋をいくつか紹介します。

非構造化 FrameMaker 10 が翻訳を助ける 8 つの方法

FrameMaker 10 の 25 を超える新機能は、いずれも既存または潜在的なユーザーをこの最新版に移行させる魅力を持っています。このレビューでは、翻訳用の多言語プロジェクトや非構造化 FrameMaker ドキュメントに大きな影響を及ぼす数少ない機能に注目します。次のブログでは、構造化および XML/DITA コンテンツのパブリッシングおよび翻訳用ドキュメントの作成に FrameMaker 10 がもたらすメリットに注目します。

多言語プロジェクトでは、翻訳後のパブリッシングに不要な時間や経費がかかりうるのは「些細なこと」と見なされることがよくあります。FrameMaker 10 のマイナーあるいは「B 級」だと考えられがちな機能の多くは、実際には非構造化 FrameMaker ドキュメントの翻訳ワークフローに多大な効果をもたらします。FrameMaker 10 には「A 級」機能がたくさんありますが、このブログの目的に沿うよう、ここでは翻訳ワークフローに最も大きな効果をもたらすと思われる機能に限定してレビューしています。

注意：このレビューは、FrameMaker の基本的知識をお持ちの方を対象に書かれています。

FrameMaker 10 の段落／文字／表カタログのスタイルを管理する

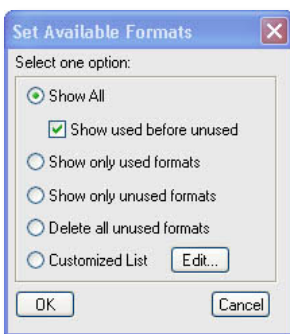
FrameMaker 10 では、すべてのカタログにカタログおよびスタイルの管理を簡易化するためのオプションボタンが新たに備わっています。これらの機能は、FrameMaker ドキュメントの翻訳後の書式設定に要する時間を大幅に短縮し、また、FrameMaker を新しいユーザーやプロジェクトを短期的に支援する臨時契約社員にも利用しやすいものにします。次のオプションがあります。

- ・ 使用中のスタイルを筆頭にすべてのスタイルを表示する（ドキュメントで使用されているスタイルの前にはチェックマークが付く）
- ・ 使用中のスタイルのみ表示する
- ・ 使用されていないスタイルのみ表示する
- ・ スタイルの表示順を変えるなど、希望するスタイルだけが表示されるようリストをカスタマイズする（例：最も頻繁に使用されるスタイルをリストの一番上に置く）：以前のバージョンの FrameMaker では、重要性には関係なく、常にアルファベット順にカタログスタイルが表示されていました。そのため、あまり使用されない書式やマスターページのヘッダーおよびフッターに格下げされたスタイルの前に「z」を付けるといった妙な回避策があれこれ取られていました。
- ・ 使用されない書式をすべて削除する：この最後の選択肢は、ドキュメントから「部分テンプレート」ドキュメントに含まれる 10 のスタイル以外のすべてのスタイルを削除したい場合に特に便利です。ドキュメントからのインポート時に、以前ならドキュメントカタログ内に多数散在していた不要なスタイルが読み込まれることがなくなります。

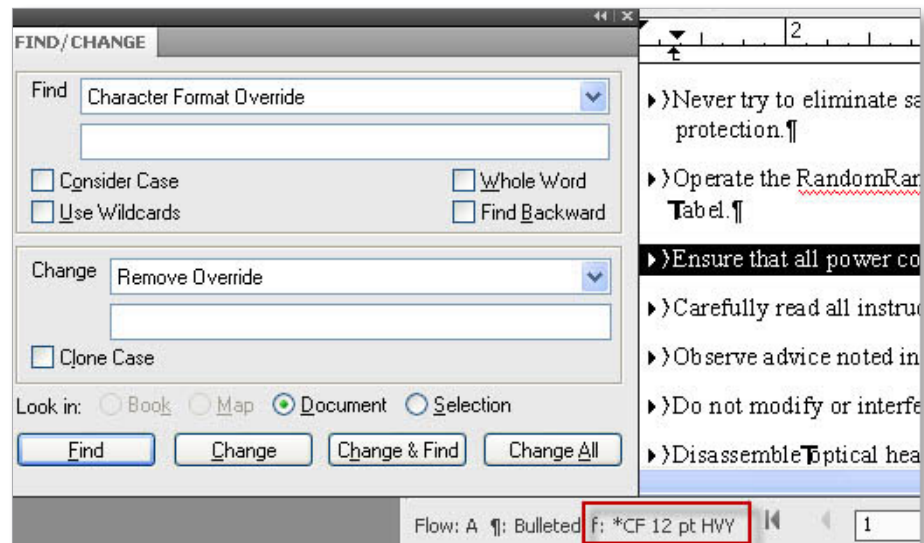
FrameMaker 10 には、表スタイルを表示するための専用の表カタログも採用されています。これにより、a) 表デザイナーを開く、b) 指定された表スタイルのプルダウンリストをスクロールする、c) 作業中のドキュメントで使用されている表スタイルを示すものがないといった以前のリリースでの不合理な操作や問題点が解消されます。

FrameMaker 10 で書式の上書きを管理する

他の多くの FrameMaker 10 のレビューは、「その他」に分類される書式の上書きを管理するための強化機能についてほとんど取り上げていませんが、この機能強化は翻訳ワークフローに大きなメリットをもたらします。この機能を使用すれば、翻訳会社では、翻訳済みのドキュメントの書式設定を調整するためのデスクトップパブリッシング作業にかかる時間を削減することができます。手作業による書式の上書き修正の数を減らす目的で、翻訳前にソースの英語ドキュメントをきれいにする場合に、この機能はとりわけ便利です。



多くの非構造化 FrameMaker ドキュメントでは、段落、文字セット、表に対する不要な書式の上書きが行われています。検索と置換メニューを使用すると、段落書式の上書き、文字書式の上書き、および表書式の上書きを検索することができます。下の例では、文字書式の上書きの検索によって、箇条書きの一覧中で無効な文字タグ「CF 12 pt HVY」が適用されている項目が特定されています。



これは、Microsoft Word から FrameMaker に変換された古いドキュメントから加工された典型的な文字書式です。この場合、「置換」をクリックすると書式の上書きが削除されます。

FrameMaker 10 ドキュメントを開くときに不要な警告を表示しない

これは不愉快な要因を取り除くだけのように聞こえますが、実際には結構大きな意味を持ちます。以前のリリースの FrameMaker では、a) フォントが環境にない、b) 旧バージョンの FrameMaker で作成されたドキュメントを開こうとしている、または c) ファイルに未解決の相互参照が含まれている場合に警告がポップアップ表示されます。翻訳ワークフローでは、翻訳パートナーにファイルの変換やソースファイルのクリーンアップ作業を任せている場合は特に、旧バージョンで作成されたファイルを何百も開くことがよくあります。従って、自社スタッフおよび翻訳会社のデスクトップパブリッシング担当者は、1 年中文字通り何百回もこれらの警告をクリックしなければならない可能性があるのです。

翻訳エージェンシーの DTP チームのメンバーが、すべてのフォントが揃っている別の場所で最終的な編集やパブリッシングが行われることを知りながら、環境にないフォントが含まれるファイルを仮に編集するということもよくあります。このようなケースでは、警告は完全に不要です。環境設定を少し変えるだけで、こうした不愉快なメッセージは表示されなくなり、1 冊の本のすべてのファイルを分ではなく秒単位で開くことができるようになります。

翻訳済みの FrameMaker 10 ドキュメントでリアルタイムのスペルチェックを行う

Microsoft Word と同様に、環境設定でリアルタイムのスペルチェック機能を有効にすれば、スペルを間違った単語の下に見慣れた波線が引かれ、修正候補がポップアップ表示されます。FrameMaker ドキュメントが翻訳されると、通常 FrameMaker テンプレートが適用され、必要に応じて段落のフォントやスタイルが変更されます。言語固有の FrameMaker テンプレートでは、「言語」の設定をターゲット言語に変更することができます。すると、ターゲット言語の辞書にない疑わしい単語の下に波線が表示されます。

これは翻訳の万能薬ではありません。というのも、FrameMaker のスペルチェッカーに存在しない（追加は可能）不明瞭な業界特有の用語がしばしば登場するからです。しかし、この機能は、パブリッシングの工程中に実行される品質チェックと同様の役割も果たします。

ドラッグ&ドロップ編集および自動実行スクリプトにより反復作業の負担を軽減する

FrameMaker ドキュメントの翻訳後の編集および書式変更時のドラッグ&ドロップ編集の効果を甘く見てはいけません。書式設定を修正するには、いくつかの文字（タグ/スペース）を選択し、それをテキストの正しい位置に移動させます。これがワンステップで行えれば、カット&ペーストよりも迅速でエラーも減ります。この利点は、利用している言語サービスプロバイダー（LSP）が提供するターゲット言語の数によってさらに大きくなります。

Adobe ExtendScript を使用すれば、時間のかかる反復的なタスクを自動化することができます。独自のスクリプトを作成することも既存のスクリプトを用いることも、さらには「自動実行」用のスクリプトを設定することもできます。スクリプトはカタログから表示およびアクセスが可能です。

数多くのパワフルなサードパーティ製品によって、以前のリリースの FrameMaker でスクリプトが可能になりました。制約となるのは、顧客とその翻訳エージェンシーの両方がスクリプト製品のライセンスを取得する必要があるという点でした。ExtendScript が FrameMaker にバンドルされたことで、スクリプトの利用範囲は拡大します。コミュニティベースのスクリプトがソーシャルネットワークに広がり、様々な FrameMaker フォーラムで利用できるようになることもあるかもしれません。

FrameMaker 10 のテキスト背景色（ハイライト）

文字または段落レベルでテキスト背景色を追加するという機能もあります。ユーザー定義の色は、コンディショナルテキストタグと関連付けて使用すると最も有用です。翻訳済みの FrameMaker ドキュメントで条件が使用されることはあまりありませんが、「条件インジケーター」が指定されたときに独自の背景色を一時的に表示できれば、条件はより明確になります。

背景色（例：ペールグレー）は、ドキュメント内で書式設定または他の翻訳後の問題に関する特別なレビューを必要とする部分を一時的にマーキングする目的で使用することもできます。

FrameMaker 10 におけるリッチメディアのサポート拡大と「ポスター」フレーム

FrameMaker 9 では、SWF ファイルおよびその他のインタラクティブフォーマットを FrameMaker のアンカー付きフレーム内に配置する機能が導入されました。これを PDF に出力するとユーザーがインタラクティブに操作できます。サポート対象フォーマットは大幅に増え、現在では QuickTime や各種ビデオフォーマットにも対応しています。また、静止画（jpeg）ファイルを読み込んで、ビデオ（例：Adobe Captivate® で出力された SWF ファイル）を表示する使い勝手の良い画像プレビュー「ポスター」を作成することもできます。

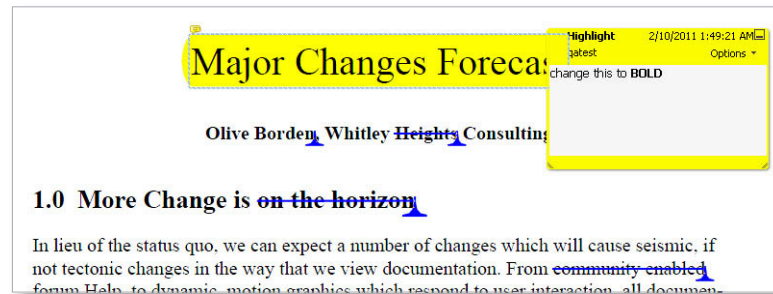
これは翻訳プロジェクトにどのような利点をもたらすのでしょうか？いまだに多くのユーザーは、一連の（しばしば 8 ショット以上）スクリーンショットや図を用いて操作手順を説明する昔ながらの方法でテクニカルドキュメントやユーザーガイドを作成しています。Adobe Captivate でソフトウェアの操作のデモを作成すれば、1 フレーム、1 ページ内に収まるので、図の数やページ数を大幅に減らすことができます。Adobe Captivate の「キャプション」やラベルは、書き出して翻訳し、簡単にもう一度ターゲット言語用のソースファイルに読み込めます。オンラインビデオやソーシャルメディアが普及した今、IT 製品ユーザーは、当然のことながら、よりインタラクティブなドキュメンテーションを求めています。

PDF の注釈を読み込む機能の強化とそれを利用した共同レビュー

PDF ファイルから注釈を FrameMaker に読み込む機能は大きく改善されました。FrameMaker 10 では、読み込まれた注釈は、その機能をほとんど維持した状態で FrameMaker 内に視覚的に表示されます。例えば、削除するとテキストに「取り消し線」が引かれる、「挿入」するとグリーンで表示されるなどです。

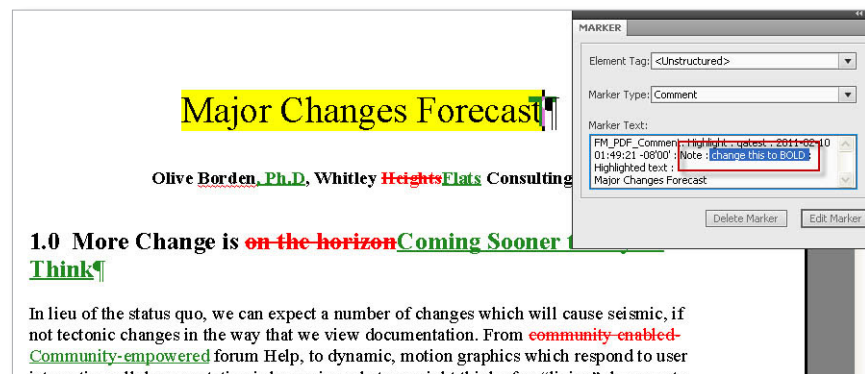
複数の作成者からの PDF 注釈を含むドキュメントのレビューに変更のトラック機能を使用すると、FrameMaker 10 のレビューワークスペースにプルダウンメニューが表示され、ユーザーは注釈を選別したり 1 人のレビューアーの注釈を表示することができます。これにより、様々なレビューアーから相反する注釈が寄せられることもある共同レビューの混乱が大幅に抑えられます。また、読み込まれた注釈にカーソルを置くと、そのレビューアーのログイン名とタイムスタンプがドキュメントウィンドウの左下端に表示されます。

Adobe Acrobat®または Acrobat Reader®のハイライトツールを使用すると、テキストを背景色でハイライト表示して注釈を適用できます。この機能は、翻訳会社が LQA(言語品質保証)を実施する際に特に役立ちます。「エキゾチック」な言語を扱うリンギストは、オンライン翻訳ポータルツールをあまり利用しておらず、ほとんどの場合、PDF でコメントを提供する必要があります。これまで、アジアの言語のレビューを担当する多くのリンギストが、「ノート注釈」の使用を試みてきました。アジアの言語では、文字列のどの範囲が変更の対象かが明確に示されないことがよくあります。レビューアーが Acrobat のハイライトツールを使って注釈を追加し、必要な変更や修正を入力すれば、翻訳会社のスタッフに対して、ターゲット言語のドキュメントに最終変更を加えるための指示を極めて明瞭に伝えることができます。



ちなみに、上のスクリーンショットに示されている編集は、ドキュメント作成者が Acrobat で Reader 拡張機能を有効にしたドキュメントを作成したとすると、無償の Adobe Reader で作成されたものかもしれません。この場合、レビューアーに Acrobat のライセンスは必要ありません。

下のスクリーンショットは、FrameMaker 10 に読み込まれた後のレビューコメントの表示が改善され、より論理的になったことを示すものです。



まとめ

ここでは FrameMaker 10 のすべての新機能を取り上げたわけではありません。FrameMaker 10 には、上記以外にもパブリッシングの多彩なニーズに応える素晴らしい機能が多数搭載されています。

FrameMaker 10 の一般的な目的用の新機能すべてについて詳しくは、アドビが制作した Adobe FrameMaker 10 & Adobe FrameMaker Server 10 レビューアーズガイドをダウンロードしてお読みください。この 79 ページから成るガイドには、非常に役に立つナレーション付きの Adobe Captivate デモが多数含まれています。Adobe TV の FrameMaker チャンネルもおすすめです。

構造化 FrameMaker 10 が翻訳を助ける 6 つの方法

FrameMaker 10 には優れた新機能が多数導入されており、そのうちのいくつかは翻訳ワークフロー用の構造化ソースコンテンツの作成に効果を発揮します。前のレビュー、非構造化 FrameMaker 10 が翻訳を助ける 8 つの方法では非構造化ワークフローに関連する FrameMaker 10 の新機能に焦点を当てましたが、このレビューでは構造化 (XML/DITA) 多言語プロジェクトに注目します。FrameMaker 10 は新たに DITA 1.2 をフルサポートします。これは、特に CMS によって管理された環境において、トピックベースのコンテンツの作成に大きな効果をもたらします。以前のバージョンの FrameMaker では個別のリンク設定を何度も行う必要があったのに対し、FrameMaker 10 ではワンステップで様々なトピックや DITA コンテンツを取り入れることができます。また、ユーザーインターフェイスが改善されたことで、「カジュアル」ユーザーやたまにしか使用しないユーザーにとっても、XML や DITA を扱う複雑な手順が利用しやすいものとなりました。翻訳エージェンシーの顧客の多くは契約社員や短期労働者にかなり依存しているので、これは大きな意味を持ちます。

タグビューの機能強化により、FrameMaker 10 の小さな画面 1 つで DITA エLEMENT の操作が可能に

FrameMaker 10 のワークスペースはカスタマイズおよび管理が可能です。いくつかの改善により構造化オーサリングが従来よりも簡単になっています。構造化オーサリングワークスペースの新しい FrameMaker アイコンをクリックすると、すべての XML または DITA エLEMENT がドキュメントウィンドウのタグとして表示されます (以前のバージョンの FrameMaker では、表示/ELEMENT (タグとして) を選択すると、折りたたまれないELEMENTタグが表示されていました)。大きな改善点は、ELEMENT を展開したり折りたたんだりできる機能です。これが行われると、選択されたELEMENT はドラッグ&ドロップ操作で移動でき、XML ドキュメントのツリー構造を構造ビューに表示する必要が低減します。



1.1.1 Section Head Working with Structure Head

Para A single click of the view element as tag icon will make visible element tags display on the document page. Due to new Emphasis collapse Emphasis and Emphasis expand Emphasis features in these tags, it is possible to do a great deal of manipulation, without using the traditional structure view. Para

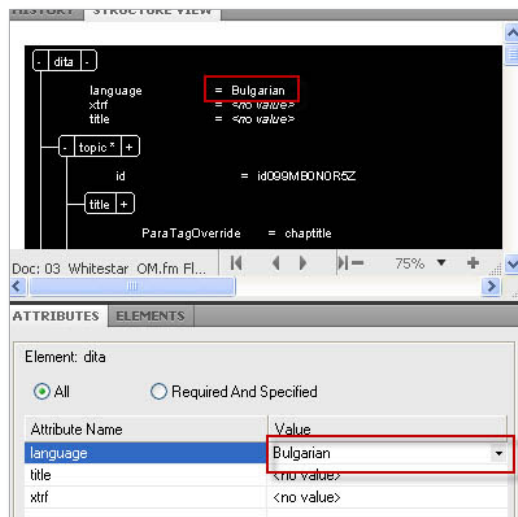
HeadingRunIn Head Exploring even deeper Head . Para By selecting and dragging tags, one may quickly change the order or elements. This is particularly useful if one is working on a laptop computer, or in a single-screen environment. Para HeadingRunIn

1. List + Item
2. + Item
3. + Item
4. + Item / List

上のスクリーンショットは、リストの最後の項目を選択して最初の項目の前に移動するケースを示しています。これは折りたたまれたELEMENTのテキストコンテンツを表示させずに簡単に行えます。このシンプルな編集作業中に、ドキュメントの構造を「ツリー状」に表示する従来の構造ビューを開く必要はありません。

利点：構造化オーサリング/編集作業がラップトップやシングルスクリーン環境でも行いやすくなりました。以前のバージョンの FrameMaker では、従来の構造ビューを表示させるために 2 台目のコンピューターを上司に頼んで用意してもらおうといったことがよくありました。このことも、DITA または XML でコンテンツをオーサリングする必要のある初心者ユーザーへと構造化オーサリングを拡大するのに一役買います。以前なら大きなコンピューターのモニターが複数必要だった複雑な構造化ドキュメントの操作が、今ではラップトップでも行えます。

FrameMaker 10 の新しい属性エディターでメタデータを管理する



属性は DITA および XML の最もパワフルなアスペクトの 1 つです。utes are one of the most powerful aspects of DITA and XML. 特定の値を持ったエレメントに「タグ」を付け様々な用途に用いることができます。例えば、「言語」属性でソース FrameMaker ドキュメントの翻訳対象外の部分を指定するといったことが可能です。属性は、FrameMaker EDD (エレメント定義ドキュメント) で指定された言語固有の書式設定と連携します。

FrameMaker 10 には、非常に利用しやすく便利な属性エディターが採用されています。シンプルなウィンドウには、要求または指定された属性値のみを表示することもすべての値を表示することもできます。以前のバージョンの FrameMaker では、属性の選択を表示するために、構造ビューを使用してエレメントの右側の [+] を選択する必要がありました。さらに古いバージョンの FrameMaker では、属性をダブルクリックして使い勝手の悪いモーダルなメニューを開くと、属性値が表示され変更することができました。

FrameMaker 10 では、属性値をもっとわかりやすくすっきりと表示できます。利点:これによって、初心者ユーザーはより短期間でメタデータに慣れることができます。ベテランユーザーはこの機能を使用することで、非表示のメタデータの監視を容易に行えます。

FrameMaker 10 では、属性値をもっとわかりやすくすっきりと表示できます。利点:これによって、初心者ユーザーはより短期間でメタデータに慣れることができます。ベテランユーザーはこの機能を使用することで、非表示のメタデータの監視を容易に行えます。

FrameMaker 10 の属性によるフィルターの適用:

構造化ドキュメントの「コンディショナルテキスト」に適したソリューション

属性によるフィルターの適用機能は、一見したところ、コンディショナルテキストをコントロールしてコンテンツを表示したり隠したりするのと似ています。構造化された FrameMaker 10 におけるこの新機能は、従来のコンディショナルテキストによる翻訳用ドキュメントのコントロールよりもいくつかの点で優れています。

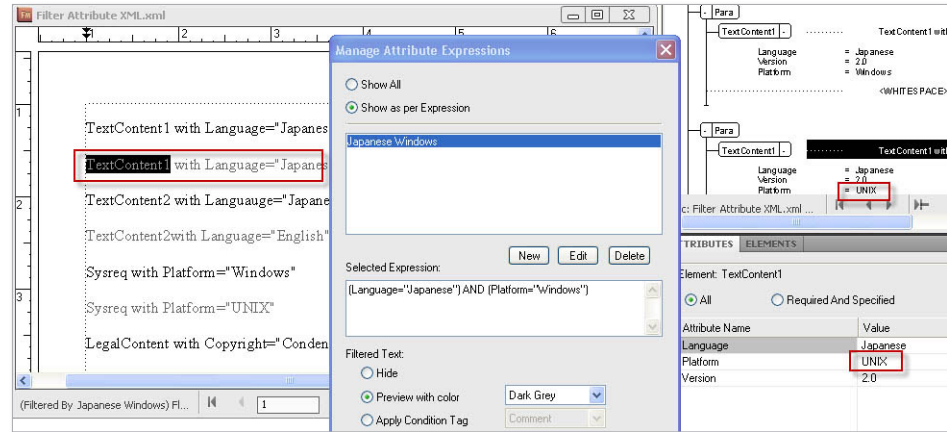
- ・ 複数の式を同時に保存できます。
- ・ ルートエレメントを隠してはいけなないので、ドキュメント全体を非表示にすることはできなくなっています。通常のコンディショナルテキストでは、うっかり空のコンテンツを作成してしまうことがあります。
- ・ 属性によるフィルターの適用機能によって非表示にできる最小単位はエレメントです。通常のコンディショナルテキストは、1つの文字を含め、選択されたあらゆるテキストに適用が可能です。
- ・ 属性は (定義に基づいて) いくつかの値を持つことができるので、非表示の条件の作成に関して、より高い精度が得られます。従って、属性値によって「表示」または「非表示」の可能性は異なります。

構造化 FrameMaker ドキュメントはエレメントによって構成されており、各エレメントは 1 つ以上の属性を持ちます。構造化 FrameMaker ドキュメントに表示されているコンテンツは、属性値に基づいてフィルターを適用できます。他の XML アプリケーションでも FrameMaker 10 と同じ属性/値ペアを使用してコンテンツにフィルターを適用できますが、属性によるフィルターの適用機能の場合は、他の XML アプリケーションでのシングルソースファイルのワークフローを保持することが可能です。

ドキュメントにフィルターが適用されると、フィルター基準に適合しないフィルター属性を持つエレメントは除外されます。除外されたコンテンツの処理方法は下記のいずれかに指定できます。

- ・ 非表示にする
- ・ カラーでハイライトする
- ・ コンディショナルタグを適用する

下の例では、表示するテキストの言語属性は日本語に、プラットフォーム属性は Windows に設定するという条件をブール式によって定義しています。この場合、プラットフォーム属性が UNIX に設定された要素は、非表示になるのではなく、ダークグレーで表示されます。



FrameMaker の従来のコンディショナルテキストおよびユーザー変数は、a) 翻訳の語順を故意に変えたり、b) 「非表示」コンディショナルタグが複数の段落にまたがる場合に異なるタイプの段落を結合する可能性があります。属性によるフィルターは要素全体にもテキストの選択範囲にも適用できるので、構造化された FrameMaker 10 において、この新しい方法でテキストの表示/非表示を切り替えると、翻訳に悪影響を与えるテキストの不要な組み合わせが作成される可能性がかなり低くなります。

FrameMaker 10 で属性値を作成する

FrameMaker 10 には、属性値のオプションをすばやく定義できる設定ファイル作成ウィザードが新たに搭載されています。例えば、オーディエンスのような属性では、MXL 標準でテキストを使用できます。これはユーザーがこのオプションの文字列属性にあらゆる値を入力できることを意味します。設定ファイル作成機能を使用して自ら指定可能な値一式を実装することで、作成者がドロップダウンリストからオプションを選択できるようになり、ユーザーによるエラーの危険性が低減します。

この機能を使用すると、やがて FrameMaker 10 ユーザーは、ドキュメント構造を微調整し、エンドユーザーの観点から見てより確実なものにすることができるようになります。ソースドキュメント、特に構造化 XML または DITA ドキュメントの構造が整然とすれば、翻訳ワークフローは必ず効率化します。

FrameMaker 10 におけるコンテンツ管理システムのサポート

FrameMaker 10 は EMC Documentum と Microsoft Sharepoint をどちらもサポートするので、チェックイン、チェックアウト、アップロード、編集、バージョン管理を FrameMaker 10 から直接行えます。ファイルまたはフォルダーをアップロードする、コンテンツを開いて編集する、コンテンツ管理システム (CMS) のリポジトリを検索する、ファイルの依存性を特定するといったこともできます。

FrameMaker 10 には、これら 2 つの一般的なドキュメント CMS ソリューションへのコネクタが無償でバンドルされています。これは、競合製品にしばしば高価なオプションとして提供されている、数あるハイエンド機能の 1 つです。もちろん、FrameMaker 10 は、ご相談に応じて Ektron をはじめとする他の CMS ソリューションにも接続できます。

利点：各翻訳会社にはコスト効率の高い CMS ソリューションの構築に苦勞している顧客がいます。FrameMaker がテクニカルドキュメント用 CMS ソリューションの代表 2 製品をサポートすることで、顧客と言語サービスプロバイダー (LSP) のどちらにも、トピック別の再利用可能なコンテンツを活用できるという利点もたらされます。

FrameMaker 10 における DITA のユーザビリティの向上

注意：アドビの FrameMaker プロダクトマネージャーを務める Kapil Verma のブログ「Do rapid DITA authoring in FrameMaker 10!」で、後述の機能を解説するクイックビデオをご覧ください。

DITA マップでリソースマネージャー (RM) ビューとドキュメントビューを切り替える

DITA マップで作業をする FrameMaker ユーザーは、リソースマネージャービューまたはドキュメントビューを使用することがよくあります。これら 2 つのビューの切り替えが、ツールバーアイコンをクリックするのと同じぐらい簡単になりました。また、2 つのビューを使用できることで、FrameMaker 10 は、これまで従来型の XML エディターを使用していた初心者ユーザーにとっても使いやすいものになっています。

DITA マップでのドラッグ&ドロップ

topicref エレメントはマップ間でカット&ペーストするのではなく、ドラッグ&ドロップ操作で再編成できます。ドラッグ&ドロップ機能を使用することで、DITA マップのカスタマイズをすばやく行えます。1 つのマップのコンテンツを別のマップに移動させ、必要に応じて再編成することも可能です。

この新しい操作方法はより直観的なので、さらに多くのコンテンツ作成者が高度に構造化された DITA 編集を行えるようになります。翻訳ワークフローにとっての利点は、より多くの人により正確に、DITA マップをベースとするソースドキュメントを作成できることです。

複数の topicref エレメントを DITA マップに挿入する

マップに topicref エレメントを追加する作業では、topicref エレメントを 1 つ 1 つ選択するのに非常に時間がかかります。FrameMaker 10 なら、一度に複数の topicref エレメントを選択したり、フォルダー内のすべてのファイルを選択したりして、ワンステップでマップに追加できます。

これもまた FrameMaker 10 の構造化オーサリング機能の強化によって翻訳用ソースファイルの作成が加速し、プロジェクト期間が短縮される例です。

まとめ

前述の非構造化機能の強化に関するレビューと同様、ここでも FrameMaker 10 のすべての新機能を取り上げたわけではありません。多くの機能強化によって、FrameMaker は多様なパブリッシング環境でより広く利用されるようになりました。このレビューは、多言語プロジェクトに対する的を絞っています。

FrameMaker 10 の一般的な目的用の新機能すべてについて詳しくは、アドビが制作した Adobe FrameMaker 10 & Adobe FrameMaker Server 10 レビューアーズガイド、をダウンロードしてお読みください。この 79 ページから成るガイドには、非常に役に立つナレーション付きの Adobe Captivate デモが多数含まれています。Adobe TV の FrameMaker チャンネルもおすすめです。

Maxwell Hoffmann, Director, Document Globalization Practice

Hoffmann 氏は、14 年以上にわたりローカリゼーション業務を経験し、GPI のドキュメントグローバル化部門のトップとして、コスト効率に優れた一貫性のある文化的に正しいやり方で、多言語コンテンツの制作およびパブリッシングサービスをクライアントに提供してきました。2011 年にはアドビコミュニティプロフェッショナルに指名され、Adobe FrameMaker と DITA/XML の専門家およびインストラクターとして豊富な経験を持ちます。

詳細情報

www.adobe.com/jp/products/framemaker.html



アドビシステムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎 イーストタワー
www.adobe.com

Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, Adobe Captivate, FrameMaker, and Reader are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

© 2011 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.

95012607 10/11